

新刊書籍のご案内

開講60周年！宣伝会議コピーライター養成講座専門コースの

人気講師が教える「広告コピーの正しい悩み方」

『最も伝わる言葉を選び抜く コピーライターの思考法』

株式会社宣伝会議(本社:東京都港区 代表取締役:東 英弥)では、『最も伝わる言葉を選び抜く コピーライターの思考法』を2017年3月1日より、全国書店にて順次発売いたします。広告コピーを書くということには、言葉を「書き出す」とことと「選び抜く」ことの二つの作業があるのですが、たくさん書いても、いいコピーを選べなければ、まったく意味がありません。世の中には、伝え方や書き方に関する本は数多くありますが、「選び方」をテーマにした本はほとんどありません。本書は、言葉で物事を「伝える」ために必要なことだけでなく、伝え方を選ぶ時の「正しい悩み方」も身につける、ビジネスに求められるコミュニケーションの考え方を体得するための本です！ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

こんな本です

- ①書き方ではなく「選び方」をテーマにした本です。
- ②選ぶ時の考え方を具体的にまとめました。
- ③小見出しが、そのまま使える判断基準です。

編集担当より

本書の企画は、ずっと前から温めていたものでした。著者の中村禎氏は2003年からコピーライター養成講座専門コースの講師を務め、今年で14年目。私は、そのうちの8年ほどを講座担当として関わっていました。卒業生の多くが活躍するのを見ていたので、その秘訣やエッセンスをまとめたいと編集したのが本書です。小手先のテクニックではなく、根本的なところからコミュニケーション力を磨くための本になったと思います。

中村禎[著]

2017年3月1日より順次発売
定価 本体 1,700円(+税)／四六判／
320ページ／ISBN 978-4-88335-391-0

◆献本希望、著者への取材、書籍のプレゼントキャンペーンなどのご相談も承っております。

著者プロフィール:

中村禎(なかむら・ただし) フリーエージェント・コピーライター



1957年 福岡県北九州市門司区生まれ。1979年 成蹊大学在学中に自分の適性を判断するため、宣伝会議コピーライター養成講座へ。1980年 J・W・トンプソンに営業職として入社。1981年 サン・アド入社 仲畑チームのコピーライターとなる。1988年 電通へ移籍。2016年 電通から独立し フリーエージェント・コピーライターとして活動開始。

1982年 ソニーのコピーでTCC最高新人賞。1993年 さくら銀行企業広告シリーズでTCC賞。2001年 KDDI合併広告シリーズでTCCグランプリ。2003年 阪神タイガース優勝の星野仙一監督応援感謝広告でTCC賞など数々の広告賞を受賞。

現在、『コピー年鑑』最終審査員、宣伝会議賞最終審査員、ピンクリボンデザイン大賞審査委員長、東京コピーライターズクラブ事務局長を務める。宣伝会議コピーライター養成講座専門コース講師は2017年で14年目になる。

◆本書の構成・目次

●第1章 広告コピーってなんでしょう？

- ・企業の言いたいことを言うだけが、広告コピーじゃないよ
- ・売ることだけが目的か？
- ・広告なんて誰も見たいと思っていない
- ・文字の地図を書く、という課題
- ・本命コピーとおまけのコピー
- ・仲畑さんのコピーチェック
- ・コピーが書ける(=選べる)人になる
- ・隠れた飢餓に命中させる

●第2章 広告コピーを学ぶということとは？

- ・学ぶとは自分が感動すること
- ・学ぶ時には恥をかけ
- ・「そんなことで騙されませんよ」
- ・ダイヤモンド鑑定士の育て方
- ・ワインの違いがわかる人
- ・コピーを判断する目盛り
- ・コピーライターに向いていない人
- ・想像力を鍛えるために
- ・現場検証の刑事になる
- ・どんな職業もクリエイティブだ
- ・なぜゴジラの身長は伸びたのか？

●第3章 さあコピーを書かず、の前に

- ・なぜあなたはコピーを書くのですか？を考える
- ・コピーライターはお医者さん
- ・コピーライターは消費者の最前線にいる
- ・異論を歓迎する。脳ミソ混ぜる。
- ・先入観は持ち込み禁止
- ・オリエンで仕入れる
- ・数字の後ろに「人」がいる
- ・まず人間を観察する
- ・「ひとり」に向けてコピーを書く
- ・カタカナ語禁止→それ日本語いうと？
- ・制約は発明の父

●第4章 コピーを書く時、の話

- ・頂点を高くするために底辺を広げる
- ・書いたコピーをヒントに次のコピーを書く
- ・ダーウィンの進化論のような図
- ・手で考える
- ・売り場に行ってみよう
- ・いいコピーが書ける場所
- ・飽きる、という進歩
- ・心をつかむボディコピー
- ・原寸大で考える

●第5章 コピーを書いた後の話

- ・右目(個人的)と左目(客観的)で見る
- ・評論家みたいになるな
- ・仲畑チェックを自己分析
- ・どっちの音が聞こえるか(◎か×か)
- ・自分のコピーに意地悪なツッコミを
- ・ツッコミ方の具体例
- ・コピーを外まで持って行く
- ・コピーをターゲットに貼りつける
- ・クライアントの経営者として選んでみる
- ・遠くに置いてコピーを眺める
- ・置き去りチェック法
- ・コピーの熱が冷めるのを待つ
- ・耳ざわりのいい言葉
- ・「だって、そうじゃん」と言えるかどうか

●第6章 思い至ること

- ・「なぜ？」を考える
- ・どうしてあのコピーができたのだろう①
- ・どうしてあのコピーができたのだろう②
- ・SKAT で審査の練習をする
- ・人の振り見て・・・
- ・相手の立場に立ってみる
- ・もしもコピーライターが飲食店の店長だったら
- ・留め石という想像力
- ・神父さんの言葉
- ・中村禎の座右の銘

●第7章 これからのコピーライターへ

- ・コピーは変わる。コピーは変わらない。
- ・コピーライターとしての軸足
- ・コピーライターの未来は
- ・会ったこともない人を泣かす仕事
- ・転局組はなぜ強いのか
- ・よるこぶのはまだ早い
- ・コピーライターは不足している
- ・チカラを出せ

●おわりに

- ・独り立つコピーライターとして
- ・一冊の本に残すこと

そのほか、コピーライター・中村禎がコピーライターになり、成長する過程で得た学びや考え方、実際の行動をまとめたコラム『コピーライターへの道 —中村禎の場合—』全6話収録

◆献本希望、著者への取材のご相談はこちら

担当者連絡先

株式会社宣伝会議 書籍編集部

TEL : 03-3475-3010

〒107-8550 東京都港区南青山 3-11-13 <http://www.sendenkaigi.com>